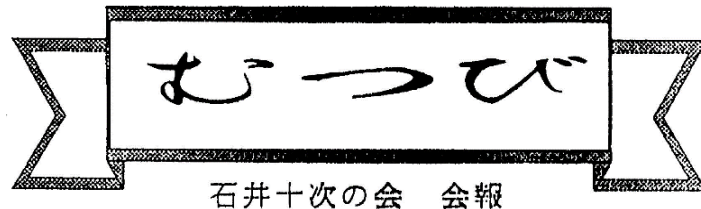


2023年
(令和5年)
9月14日



312号

空手道物語

西都市 南空会空手指導者 橋口 登志郎

今回も「むつび」に書かせていただきありがとうございます。

ただ、話のネタが多くあるわけではないので、今回は石井十次先生の児童福祉という面からだいふ離れた話をさせていただきます。

私は昭和32年生まれです。西暦でいうと1957年になります。

1950年代生まれの男の子はある映画に衝撃を受けました。1973年日本公開のブルース・リー主演「燃えよドラゴン」です。

日本で公開されたときにはブルース・リーは亡くなっていたので、まるで「エデンの東」のジェームズ・ディーンのような捉え方もされて、ものすごい人気でした。

そして、戦いの哲学・ニヒルな表情で意味深げなセリフ「**Don't think, feel!**」(考えるな、感じる!)に男の子たちは夢中になりました。

さて、ほぼ同時代に少年マガジンでは、梶原一騎原作「空手バカ一代」が連載されました。

ヘミングウェイの言葉が載っており(事実を事実のまま 完全に再現することは おもしろおかしい架空の物語を生み出すよりもはるかに困難である) ---、真のドキュメンタリー(ノンフィクション)のようなストーリーと信じたものです(その後、脚色のあまりの大きさに愕然としましたが)。

しかし、無垢な私はその波を思いっきり被ってしまいました。俗にいう空手バカ一代世代というやつです。

空手はしたかった。でも、今と違って空手道場は滅多になかったし勉強も忙しかった(嘘です!)ので、高校生の時はあきらめていました。

大学に行ったら勉強なんかしなくて、空手をやる(親不孝の極みですね。高い入学金授業料を払ってもらっているのに息子はこの有様です)と心に決めていました。

1 空手道物語～大学生時代

そして、難関の難産大学 いや違った南山大学に合格した私は入学式が終わると、校内をうろうろして、空手部の先輩を見つけ、自ら「入部したい」と言いました。

だいたい、大学体育会の空手道部というのは、それまで選手として中学・高校で活躍していた選手がより頑張るために入部するか(素晴らしい人です)、だまされて入部するか(運が悪い人です)のどちらかです。

それなのに、今までやったことのない人間が、自ら入部を希望する(バカな人と言います)。

ところが、世は空手ブームだったせいで、先輩の甘い勧誘の言葉を信じて入った人たちが14人(運の悪い人)がいて、新入部員は計15人(運の悪い人+バカな人)でした。

念願の空手道部に入った私は、桜の花の咲き誇る中、期待に胸をふくらませ稽古に励みました。先輩はこぼれんばかりの笑顔で教えてくださいます。

稽古後に先輩が腹をつきだして私に言います「toshiro 君 ちょっと腹突いてみて」

私はあらん限りの力で突きました。すると、先輩は「ウッ、いやぁ 良い突きしてるね」

お腹をさすりながら「才能あるよ」ぼそっと言います。

単純な私は「俺って才能あるんだ」と勘違いしました(後でわかりました。先輩の演技だったんです。だって蹴ろうがバットで殴ろうが全く効かないボディを先輩達はもっていました。それが私のへなちょこパンチで効くはずがないです)・・・楽しかった。

けれど、おかしいなとも思いました。4年生は6人いたけれど3年生は3人、2年生に至っては2人しかいません。でも能天気な私は稽古に励みました。

ゴールデンウィークに入りました、4年生が言います「連休中は学校内の研修センターで合宿をします」。

刺激の大好きな私は「空手の合宿」の言葉にじびれました(合宿では体がじびれましたけど・・・)。朝2時間・午後2時間・夜2時間(多分こうだったと思いますが自信はありません。人間はいやな記憶は消し去る能力があります)

それまでは一日2時間の稽古だったので、きつかった。何とか明日が最終日という晩になりました。

夜中の3時突然たたき起こされて、稽古が始まりました。ボーツとした頭で体を必死に動かしました。きつかった(日本レスリングの鬼の八田さんもやっていたようです)。私はこの練習を「ミッドナイトスペシャル」と名付けました。

合宿最後の昼2時間の練習になりました。ちょっと雰囲気がおかしいのです。その場立ち稽古があります。騎馬立ちで（乗馬する形から騎馬立ちといわれますが、腰をしっかりと落とすので、足腰がきつい立ち方です）突きを果てしなく続けます。

きつくなって腰を浮かしたら何故かお腹とお尻に蹴りが飛んできます（これをやるから先輩は打たれ強くなります。でも新人生にとっては・無茶苦茶痛いです）。

騎馬立ちのまま、人を肩車します。腰を上げたらやはり蹴りが来ます。

次は、移動稽古が始まります。追い突きでの移動です。一步踏み込みます。4～5発ずつ蹴りがお腹や尻に飛び、出した突き手はいろんな方向から叩かれ押さえつけられます。

部顧問のオオダカ先生は眼鏡を掛けた、とっても柔和な表情をされた会計学の先生です。

先輩にお腹やお尻を蹴られ、後ろ足の膝の後ろを踏まれ（後ろ足をピーーンと伸ばし、力を入れるのは前屈立ちの基本です）ていた私は先生に SOS の視線を送りました。

先生は優しい眼差しで「ガンバレ・・・」（トホホッ）

後で聞いたのですが、この行事は「洗礼」と言われてました。そしてオオダカ先生は会計学でも名教授でしたが、空手も和道流の達人でした。（ちなみに南山大学は松濤館流）

南山大学はカトリック系のクリスチャン校です。

「なんじ左の頬をうたれれば、右頬を出せ」の言葉がある。再度言いますが博愛のクリスチャン校です。

本当の洗礼はイエスの血の葡萄酒、肉体のパンそして聖水を額に垂らし行われるのですが、空手道部の洗礼は葡萄酒の代わりに突き、パンの代わりに蹴り、そして額に押忍の気持ちを刻み洗礼を行うのです。

いやー先輩の数が少ないわけがわかりました。みんなやめちゃったんですね。

朦朧とする意識の中で、道場に飾ってある額が眼に入りました。

そこには「敬天愛人」と書いてありました。

洗礼を受け、晴れて空手道部員になり、順調に修行をし、主将もやらせていただきました。学生を終え社会人となり、空手をやりながらも、別の競技にも汗を流しました。

2 空手道物語～指導者として今

20数年前です。西都市PTA協議会で妻南小の柘植教頭と知り合いました。先生は南小で空手の少年団をやっており、私が同じ松濤館をやっていたと知ると、一緒に指導してくれないかと依頼されました。私は受けさせてもらいました。

1年後、柘植先生（教頭先生）が転勤となりました。私はその時の子ども達や保護者の皆さんにこれからどうしますか？と聞きました。

子どもたちは「まだ空手がやりたい」という希望だったので、引き継ぐこととなりました。

柘植先生は「顕心会」という名称で少年団を運営していました。

勿論「顕心会」は柘植先生の大事な名称なので、新たに道場名を決める必要があります。

そこで名前を「南空会」としました。

南空会という名前は、南山大学空手道部のOB会の名称なのです。

3 空手道物語～指導者として西郷隆盛・石井十次に学ぶ

そして基本となる骨子の言葉を決めました。それがあの意識もうろうとした中で見た「敬天愛人」という言葉です。これは西郷南洲先生が好んで使われた言葉といわれます。

西郷先生はこの言葉の意味として「道というのはこの天地のおのずからなるものであり、人はこれにのっとって行ふべきものであるから何よりもまず、天を敬うことを目的とすべきである。天は他人も自分も平等に愛したもうから、自分を愛する心をもって人を愛することが肝要である」と述べています。

そうやって子どもたちを20年間指導してきました。

石井十次先生は日本の児童福祉の父です。先生の言葉に「天は父なり 人は同胞なれば 互いに相愛すべきこと」があります。

一時期は数千人の孤児を受け入れ、育てた先生と比較するのはおこがましいのですが、子どもたちを指導しながら、教育の骨子となるものは繋がるんだと思いました。

また、指導しながら、石井先生の逸話に学びました。

「・・・十次は、大勢の前で子どもを褒めたり、叱ったりはしませんでした。大勢の前で褒められると、子どもは有頂天になってしまう。逆に大勢の前で叱られると自信を失くし、いじけてしまう。このように考えて、褒める時も叱る時も別室に行って、一対一でそうしました。褒め方も心がこもって子どもを勇気づけました。叱る時は、感情的にならずに、諄々と説いたそうです。」

これは至極私の腑に落ちた言葉でした。空手と福祉と違う分野ですが、基本は同じなんだと安心しました。

そして石井先生の言葉

「信じて疑うことなかれ、祈りて倦むことなかれ。為せよ、屈するなかれ。時重なれば、その事必ず成らん」これを胸に空手を教えていきたいと思っています。

「なんにもしないでいるって すてき」

むつび編集委員 西村さと子

むつび編集委員として、声をかけていただき一年がたちます。きっかけは、「何もしていない」ことでした。

3年前の退職したころは「今、何をしているの？」と尋ねられることがしょっちゅうでした。そのたびに「何もしていません」と答えました。すると、「何もしていないの？何かしたほうがいいよ」と言われます。中には、「何もしないとボケるよ」とか「時間を持て余すでしょ」とか言う人もいました。そのたびに、「家にいてもすることがたくさんあるんだけどなあ、まだやりたいことが見つからないだけ」と、心の中でつぶやいていました。

確かに、私自身も仕事に就いていたころは、何もしない時間は無駄な時間だと思っていました。次々と求められる職務や、自らがやりたいと考えていることがたくさんあるかのように、仕事に打ち込んでいた気がします。

ある日、宮崎日日新聞で、「なんにもしないでいるって すてき」という見出しを見つけました。それは、児童文学作家の角野栄子さんが書かれていて、「なんにもしないでいると、今まであまり気にとめなかったものが、気になりだす。何もしない時間は、案外、心がにぎやかに動き出すものです。」と、私の気持ちをしっかりと表現してありました。そのとおりです、何もしていないでいるから今まで経験したことがないことを経験できます。

何もしないでいたから、竹之下編集委員長から「むつびの編集委員をしないか」と声をかけていただき、石井十次について、今の児童福祉について学ぶことができました。そして、その精神を受け継ぎ、支える人たちと出会うことが楽しみとなりました。

倉敷にある大原美術館を是非訪ねたいと若いころから思っていました。それが今年の5月にやっと実現したのも編集委員会での情報交換がきっかけです。これからも、石井十次の会を支える人々との出会いや活動を通して、心にぎやかに過ごしていきたいと考えています。



～ルノワール作「ココの像」の真実～(その1)

石井十次資料館は、昭和54年に建設されました。石井十次の生涯とその足跡(日記、手紙、写真、当時の日用品等)が 約2000点展示されています。

どの資料展示物も十次の数々の教えを今に伝えるために、先人たちが精魂こめて配置された貴重な品々ばかりです。



ココの像

その中でも、ルノワール作「ココの像」に来館者は大変驚かれ、「本当に本物？レプリカですか？」などと言われることがあります。

もちろん「ココの像」は正真正銘の本物のルノワール作品です。

今回、そんな「ココの像」の謎が解ける川上典子様(柿原政一郎の孫、石井十次の会会員)から嬉しいお手紙が届きました。

それによると川上典子様の父親である長津久男氏(柿原政一郎の次女の夫)は、東京帝国大学を卒業し、中央の官庁で活躍されていましたが、政一郎の次女と結婚した縁で、宮崎の地での事業を助けることになりました。

高鍋で終戦を迎えた石井十次の孫 児嶋琥一郎(東京帝国大学卒)は、十次没後、日記や文献、土地、建物等を守ってきた柿原政一郎の強い勧めで、戦争の犠牲となった孤児を救うことを決意し、「石井記念友愛社」を設立しました。(昭和20年)

長津氏は、大原社会問題研究所を手助けしていた事もあり、琥一郎が戦後の厳しい世の中で日々努力している姿に、気持ちが通じ合い親交が深まっていったそうです。

「ココの像」は、昭和32年に長津久男氏が大原総一郎に直接お願いし、琥一郎の為に寄贈して頂きました。とても大切なお品でしたので、長津氏は夜行列車に座って、ひざに抱えて児嶋琥一郎にお届けしたというのが正しい経緯です。(次号につづく)

参考資料 石井十次資料館 川上典子様(柿原政一郎の孫)からの手紙 (編集委員 徳地順子)

《 お し ら せ 》

★新会員のご紹介 (敬称略)

【宮崎市】長友 美都 河野 敏子 大野 香織 【都城市】臼井 恵里子

★ご寄付をいただきました (敬称略)

【宮崎市】河野 直佐 日高 亜紀 【岡山市】佐藤 晃一

★10月号の通信発送作業は10月11日(水) 12日(木) いずれも9時からです

この会報は、宮崎県を中心に全国1700余の個人・団体に毎月送付しています。

〒884-0102宮崎県児湯郡木城町大字椎木644-1
社会福祉法人 石井記念友愛社後援会
石井十次の会

TEL/FAX 0983-32-4612

メール yuuaisya-jyuujinokai@kijo.jp

編集後記

●巻頭原稿は、橋口登志郎様より玉禍をいただきました。

ありがとうございました。

(編集委員 徳地 順子)